

造影剤副作用発生時の対処フローチャート

造影剤注入開始

患者さんへの声かけを行いながら観察

初期兆候に注意

生あくび、冷汗、くしゃみ、咳、顔面紅潮、掻痒感
注入部熱感、血管痛、悪心、嘔吐、顔面蒼白など

上記症状や患者の訴えがあった場合

造影剤の注入を一時中止（Dr.に連絡）

患者の状態の確認 **バイタルサインのチェック**

異常がない場合

軽症な副作用

中等度副作用

重篤な副作用

患者の状態を把握した後、
注意深く観察しながら検査
続行の可否を検討

蕁麻疹、浮腫（顔面、手足、全身）
血圧低下嘔声、軽度喘鳴など

注入部熱感、血管痛

悪心、嘔吐、下痢

痙攣、血圧低下
意識消失、心停止など

血管の発赤・腫脹（+）
血管を刺しかえ注入

血管の発赤・腫脹（-）
注入速度を下げ注入

輸液ルート確保し、輸液開始。
その後、症状に応じて適切な処置を施行

酸素吸入、人工呼吸
輸液ルート確保
蘇生術などの救命処置

異常なし

検査続行

検査終了

帰宅後に発疹、掻痒感などの皮膚症状。頭痛、全身倦怠感などの
症状があれば病院に連絡するように説明（遅発性副作用）